

## &lt;資 料&gt;

## 和牛産肉能力検定（直接法：平成19年度）

馬 場 誠

## Individual Performance Test of Sire in Japanese Black Cattle

Makoto BABA

## 要 約

候補種雄牛を雄子牛から選抜するため、社団法人全国和牛登録協会の定める産肉能力検定（直接法）を実施した。

- 1 平成19年度には10頭の直接検定を実施し、そのうち7頭の検定が終了した。
- 2 検定終了牛の平均DGは、1.23kg、平均得点は83.0点であった。
- 3 検定成績、血統、体型等を総合的に評価した結果、「勝真太」、「久高嶺」を候補種雄牛として選抜し、「北盛栄」を保留とした。

キーワード：牛、和牛、黒毛和種、種畜、産肉能力検定（直接法）、増体量

## 緒 言

和牛経営においては、繁殖雌牛の産肉性及び種畜性の改良が大きなウエイトを占めており、優良種雄牛の作出が急務である。

そこで、県内優良雌牛から生産された産肉性及び種畜性の優れた雄子牛について、増体性、飼料効率及び種畜性を判定するため、産肉能力検定（直接法）を実施した。

## 材料及び方法

- 1 検定牛  
肉用牛広域後代検定推進事業により認定され

た基礎雌牛等の産肉能力育種価の高い繁殖雌牛から生産された雄子牛について産子調査を実施し、発育状況等の優れたものについて検定牛として選抜した。

平成19年度検定実施の検定牛は表1に示したとおりで、父牛別にみると「第5北盛」の産子が4頭、「勝福茂」の産子が2頭、「第6栄」、「糸清福」、「第2富藤」、「沢茂勝」の産子が各1頭の計10頭であった。

また、平成19年度検定終了したものは、平成18年度開始分が1頭、平成19年度開始分が6頭の計7頭であった。なお、表2に検定牛の産肉肉質に係る期待育種価、表3には表2の期待育種から期待される検定牛本牛の期待枝肉成績を示した。

表1 検定牛の概要

セットNo.	名 号	生年月日	登録番号	血 統			産地	検定期間
				父	母	母の父		
H18-2-1	勝真太<勝茂波>	H18.06.30	2006子岡黒397	勝福茂	ふくなみ2	茂重桜	倉敷市	H19.03.07 ~ H19.06.27
H19-1-1	栄山6	H18.09.03	2006子岡黒1089	第6栄	かつさくら35	平茂勝	岡山市	H19.04.18 ~ H19.08.08
H19-1-1	久高嶺<高嶺>*	H18.08.25	2006子岡黒1214	糸清福	あられ	平茂勝	新見市	
H19-2-1	春香	H19.03.22	2007子岡黒609	第5北盛	としもりはやし2	利花	美咲町	H19.10.31 ~ H20.02.20
H19-2-2	富士幸村	H19.03.22	2007子岡黒608	第2富藤	第8ふじぎく8	利花	美咲町	
H19-2-3	沢藤勝	H19.03.19	2007子岡黒5320	沢茂勝	いとはな11	平茂勝	新見市	
H19-2-4	北盛栄	H19.03.03	2007子岡黒511	第5北盛	としさかえ6の1	美津福	真庭市	
H19-3-1	美盛光	H19.08.18	2007子岡黒511	第5北盛	みつひかり	美津福	美作市	H20.03.06 ~ H20.06.26
H19-3-2	大吉	H19.07.22	2007子岡黒511	第5北盛	いそえ10の4	利花	新見市	
H19-3-3	勝花矢	H19.06.29	2007子岡黒511	勝福茂	いとはなや	糸藤	美咲町	

(注意) : < >内は、旧名号。

表2 検定牛の産肉能力期待育種価 (kg, cm<sup>2</sup>, cm, 脂肪交雑基準値)

セットNo.	名号	期待育種価			
		枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	脂肪交雑
H18-2-1	勝真太<勝茂波>	46.899 (A2)	10.452 (1%)	0.509 (A3)	1.224 (A1)
H19-1-1	栄山6	43.837 (A3)	8.421 (5%)	0.561 (A3)	1.354 (5%)
H19-1-1	久高嶺<高嶺> *	51.866 (A1)	5.188 (B1)	0.874 (3%)	1.202 (A1)
H19-2-1	春香	46.385 (A2)	5.506 (A3)	0.874 (3%)	1.296 (A1)
H19-2-2	富士幸村 **	20.386 (B2)	2.012 (C)	0.172 (C)	1.001 (A3)
H19-2-3	沢藤勝	79.002 (1%)	6.850 (A2)	0.644 (A2)	1.626 (1%)
H19-2-4	北盛栄	60.557 (5%)	4.140 (B2)	1.006 (1%)	1.547 (3%)
H19-3-1	美盛光	64.582 (5%)	9.587 (3%)	1.046 (1%)	1.783 (1%)
H19-3-2	大吉	46.742 (A2)	5.091 (B1)	0.848 (5%)	1.375 (5%)
H19-3-3	勝花矢	37.663 (A3)	5.642 (A3)	0.484 (A3)	1.100 (A2)

(注意) : \* は母牛の期待育種価

\*\*は祖母牛からの期待育種価

( )内は、下記のランクを示す。

(1%); 上位1%以上、 (3%); 3%以上1%未満、 (5%); 5%以上3%未満

(A1); 10%以上5%未満、 (A2); 15%以上10%未満、 (A3); 25%以上15%未満

(B1); 1/3以上25%未満、 (B2); 平均以上1/3%未満、 (C); 平均未満

なお、育種価は第27回育種価 (H20.4.1公表) による。

表3 期待育種価から期待される検定牛の枝肉成績 (kg, cm<sup>2</sup>, cm, BMSNo.)

セットNo.	名号	期待育種価			
		枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	脂肪交雑
H18-2-1	勝真太<勝茂波>	46.899	10.452	0.509	1.224
H19-1-1	栄山6	43.837	8.421	0.561	1.354
H19-1-1	久高嶺<高嶺> *	51.866	5.188	0.874	1.202
H19-2-1	春香	46.385	5.506	0.874	1.296
H19-2-2	富士幸村 **	20.386	2.012	0.172	1.001
H19-2-3	沢藤勝	79.002	6.850	0.644	1.626
H19-2-4	北盛栄	60.557	4.140	1.006	1.547
H19-3-1	美盛光	64.582	9.587	1.046	1.783
H19-3-2	大吉	46.742	5.091	0.848	1.375
H19-3-3	勝花矢	37.663	5.642	0.484	1.100

(注意) : \* は母牛の期待育種価から

\*\*は祖母牛からの期待育種価から

## 2 検定方法

検定方法は、社団法人全国和牛登録協会の定める和牛種雄牛産肉能力検定法 (直接検定) に準拠し、次のとおり実施した。

(1) 検定開始月齢 : 6 ~ 7 カ月齢

(2) 検定期間 : 112 日間

(3) 検定飼料及び給与方法

濃厚飼料 : 直接検定用飼料を体重比 1.0 ~ 1.3 % 制限給与

(DCP 12.5% TDN 70.5%)

粗飼料 : チモシー乾草を飽食

## 3 検定調査項目

1 日当たり平均増体量 (DG)、365 日齢補正体重、飼料摂取量、体重 (2 週間毎)、各部位測尺 (4 週間毎)、終了時審査得点

### 検定成績

平成 19 年度に検定が終了した 7 頭について、検定成績を表 4 に示した。

表4 検定成績結果

(kg, %, cm, 点)

セットNo.	名 号	1日平均 増体量	365日 補正体重	飼料摂取量		粗飼料 摂取率	発 育			審査得点
				DCP	TDN		体高	( $\sigma$ 値)	発育判定	
H18-2-1	勝真太<勝茂波>	1.43	459.3	81	595	51	124.6	0.2 $\sigma$	3-(5)	83.4
セットNo.	名 号	1日平均 増体量	365日 補正体重	CP	TDN	粗飼料 摂取率	体高	( $\sigma$ 値)	発育判定	審査得点
H19-1-1	栄山6	1.23	426.0	99	550	55	121.0	-0.3 $\sigma$	3-(5)	82.2
H19-1-1	久高嶺<高嶺>	1.07	431.2	101	564	52	123.6	0.3 $\sigma$	3-(5)	84.1
H19-2-1	春香	1.10	441.0	98	538	51	125.0	1.0 $\sigma$	4-(5)	83.3
H19-2-2	富士幸村	1.31	467.3	104	576	52	121.6	0.0 $\sigma$	3-(5)	82.2
H19-2-3	沢藤勝	1.23	459.2	104	576	52	126.0	1.2 $\sigma$	4-(5)	82.9
H19-2-4	北盛栄	1.21	440.3	101	559	50	125.7	0.8 $\sigma$	4-(5)	83.0
平 均		1.23	446.3	101	565	52	123.9			83.0

## 1 増体量

1日当たりの平均増体量は、最高1.43kg「勝真太」、最低1.07kg「久高嶺」、平均1.23kgであった。  
また、365日齢補正体重は、最高467.3kg「富士幸村」、最低426.0kg「栄山6」であり、平均で446.3kgであった。

## 2 飼料摂取量及び粗飼料摂取率

飼料摂取量の内、蛋白質関連が、平成18年度開始分まではDCPで表示され、「勝真太」は81kgであった。平成19年度開始分からはCPで表示され、「富士幸村」と「沢藤勝」が最高で104kgであり、最低は「春香」の98kgで、平均は101kgであった。また、飼料摂取量の内TDNは、最高が「勝真太」の595kgで、最低は538kgの「春香」であり、平均は565kgであった。

また、粗飼料摂取率は、最高が「栄山6」で55%、最低が「北盛栄」の50%であり、平均は52%であった。

## 3 終了時の発育及び審査得点

終了時の体高の最高は126.0cmの「沢藤勝」で、最低は「栄山6」の121.0cmであり、平均は123.9cmであった。社団法人全国和牛登録協会の定める和牛発育標準（雄）に基づく発育判定では「4-(5)」が3頭、「3-(5)」が3頭であり、概ね良好な成績であった。

また、審査得点は、最高が「久高嶺」の84.1点で、最低82.2点の「栄山6」と「富士幸村」であり、平均は83.0点であった。

## 4 候補種雄牛の選抜

岡山県和牛改良委員会において、直接検定成績、血統及び体型等の結果を総合的に協議した結果、「勝真太」及び「久高嶺」を候補種雄牛として選抜し、「北盛栄」については、現在検定中のなかに父牛が同一種雄牛の「第5北盛」の産子が2頭いることからその成績が出た段階で選抜することとし、今回は保留とした。

## 参 考 文 献

- 1) 和牛登録事務必携（平成17年度版）. (社) 全国和牛登録協会編. 158-160